

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東調布第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 問題解決学習の流れを意識して指導することで、解決すべき学習問題を理解し、学習に見通しをもって取り組むことができる児童が増えてきた。
- ・ ペアやグループでの意見交流を日常的に授業に取り入れたことで、予想や考察において自分の考えをもち、その考えを伝えることができる児童が増えてきたと言える。

(2) 課題

- ・ 「知識・技能」の定着に課題がある。学習内容が定着している児童と定着していない児童との差が学年を経るごとに広がっている。
- ・ 自分の考えを表現することができる児童は増えたが、理由や根拠を示して説明することができる児童が少ない。
- ・ 既習事項や生活経験と結び付けて考えたり、考えを比較して共通点や差異点に気付いたりする力を高める必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	全国の平均値を0.4㊦下回った。		
第5学年	全国平均値を1.6㊦上回った。	全国の平均値を1.8㊦上回った。 (第4学年時)	
第6学年	全国の平均値を2.2㊦下回った。	全国の平均値を1.2㊦上回った。 (第5学年時)	全国の平均値を0.3㊦上回った。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第4学年

知識・技能	思考・判断・表現
目標値を2.0㊦上回った。設問別にみると、「こん虫のからだのつくり」「太陽と地面の様子」は、目標値を上回っているが、それ以外は下回っている設問が多くみられる。特に、「こん虫の育ち方」では5㊦以上、下回っているため、課題があるといえる。	目標値を2.7㊦下回った。設問別にみると、「音のせいしつ」では、「思考・判断・表現」する力が身に付いている。「磁石のせいしつ」、「物の重さ」は目標値を大きく下回っていた。また自分の考えを記述することに課題があるといえる。

② 第5学年

知識・技能	思考・判断・表現
目標値を5.1㊦上回った。設問別にみると、「1年間の植物の成長」「1年間の動物のようす」が目標値を大きく上回っていた。「天気のようにすと気温」「電気のはたらき」「物のあたたまり方」では下回っているため課題があるといえる。	目標値を7.1㊦下回った。設問別にみると、「物のあたたまり方」について、空気をあたためる方法を説明する問題で大きく目標を下回っており、知識・理解と共に、自分の考えを記述することに課題がある。

③ 第6学年

知識・技能	思考・判断・表現
目標値を1.7割下回った。設問別にみると、「電流のはたらき」は、目標値を上回っているが、それ以外は下回っている設問が多くみられる。特に、「植物の花のつくりと実」「天気の変化」では5割以上、下回っているため、課題があるといえる。	目標値を1.2割下回った。設問別にみると、「植物の花のつくりと実」では、「思考・判断・表現」する力が身に付いている。「天気の変化」、「植物の発芽と成長」目標値を下回っていた。また、「物のとけ方」の記述も下回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 日常的に、問題、予想、実験、結果、考察、まとめの学習活動の流れを定着させる。特に、中学年の目標として、問題・予想について重点をおいて指導する。 - 観察・実験の結果を基にして、学習内容を振り返る時間を取り、体験から知識の定着を図る。一人一人観察・実験する機会や、実験方法・実験結果を確認する時間を十分にとる。	- 疑問に思ったことから学習課題を立て、自分たちで主体的に問題を解決できるようにする。 - 実験について予想を立て、一つの事象からどんなことが考えられるか、日常生活の経験と結び付けて考えさせる。 - 予想と結果を比較し、自分の予想との違いを書くことで、考えを深められるようにする。	- 自然事象に興味をもち、日常生活と結び付けて考えるように、身近な事象や既習事項をもとにして導入を工夫する。 - 実験結果、観察結果や資料から読み取ったり考察したりする際、自分の言葉で文章にまとめたり、それをグループや学級全体で検討したりする活動を設定する。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 一人一人に実験器具を操作させて使い方を確認したり、自然事象や現象について視聴覚資料を基に考えさせたりして、実感を伴った理解を図る。 - 実験結果を記録するときに、重要な箇所にしるしを付けたり、教科書に書かれている内容を確認めたりする。 - ICT 機器を活用し、視聴覚資料を提示したり、既習事項の復習をしたりして、知識の定着を図る。	- 実験、観察の結果を図や表、グラフなどを使って整理する。 - 実験結果から考察する際に、根拠を書くように伝える。 - さまざまな考えを比較して、よりよい考えや正しい実験方法を選んだり、考察したりできるようにする。 - 考察を発表するときに、他の人の考えを知ることができるように、共有の時間を設ける。	- 日常生活と結び付けて考えたり、具体物を見せたりするなどして実感を伴うようにする。 - 共通点や差異点に気付きながら学習できるように、小グループでの話し合いを行う。 - 単元の初めに、児童から疑問を引き出して学習計画を立てる。 - 問題、予想、実験、結果、考察といった学習展開を板書で示して次の活動を意識できるようにする。

4 重点指導事項

○ICT 機器を活用し、資料を提示したり、既習事項を確認したりして、基礎的な知識、理解の定着を図る。

（知識・技能）

○中学年：実験について予想を立て、一つの事象からどんなことが考えられるか、日常生活の経験と結び付けて考えさせる。（思考・判断・表現）

高学年：実験、観察の結果を図や表、グラフなどを使って整理し、考察を自分の言葉で表現する力を育成する。（思考・判断・表現）

○単元や授業の初めに既習事項を確認する。また、学習計画を提示することを通して、主体的に学習に取り組むことができるようにする。（主体的に学習に取り組む態度）